

寛政八年

讀下司話説

京傳作
重政重

合二冊

13
2946
45



45
2946
45

いふ

諺下司話説自叙

人の撒く屁は臭く我撒く屁は臭く好
いふもいふも大坂下流の男は穢尻を登りて
其れは臭くする上天乃屁の色もたけく香も
放屁別傳の支珠支那の菩薩も屁を
尻すすかの尻は等が報究りて汗くす
すいひあつん其たの百日の洗法も臭尻一つと洗
あふ穢人の屁は臭くしとセバ人亦臭尻を臭く
せん一薫一乾尚く臭く事なり柳八郎半屁は黄
いふもいふも香も撒く人ぞいふ



寛政八丙辰春

烟草袋舗よめい

山東京傳戯題







この世の事は
 人の心次第
 ありふれた事
 にもなるが
 心持次第
 ならぬ事
 もあると
 思ふ



此の世の事は
 人の心次第
 ありふれた事
 にもなるが
 心持次第
 ならぬ事
 もあると
 思ふ

かじり

人の心次第
 ありふれた事
 にもなるが
 心持次第
 ならぬ事
 もあると
 思ふ



人の心次第
 ありふれた事
 にもなるが
 心持次第
 ならぬ事
 もあると
 思ふ

人の心次第
 ありふれた事
 にもなるが
 心持次第
 ならぬ事
 もあると
 思ふ







昔は人の津路へ
 来りて復た来り
 此の津路へ
 来りて復た来り



